

2018年に北九州市がアジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されたことを機に、「SDGs商店街」を目指している魚町銀天街。中心市街地の商業の衰退、後継者不足、来街者の減少といったさまざまな地域課題を解決すべく多彩な活動を展開し、今、商店街に変化が起こりつつある。

商店街を挙げて 社会的課題に取り組む

江戸時代から続く魚河岸を源流とする魚町は、北九州市随一の繁



商店街内のLEDライトの電力はすべて、アーケードの屋根に設置されたソーラーパネルでまかなっている

「SDGs商店街」を目指す取り組みで 地域の課題を解決

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて力を入れる目標



社名 魚町商店街振興組合（うおまちしょうてんがいしんこうくみあい）
所在地 福岡県北九州市小倉北区魚町3-1-15
電話 093-521-6801
代表者 梯輝元 理事長



HPIはこちら

魚町商店街振興組合

福岡県北九州市

「それ以前から来街者を増やす取り組みをしてきました。例えば、11年に遊休不動産の再生を目指す『リノベーションまちづくり』を始めてから空き店舗は減り、通行量が約3割増え、新規雇用者500人超を達成したんです。次の目標

は、魚町銀天街がSDGsに乗り出したのは2018年8月だ。同年3月に、OECD（経済協力開発機構）がSDGs推進に向けた世界のモデル都市として、同市を選定したことをきっかけに、「SDGs商店街宣言」をして活動を始めた。

華街である。その中心を南北に貫く全長約400mに、160店舗が軒を連ねているのが魚町銀天街だ。「銀天街」の名称の発祥地であり、1951年に公道上でアーケードを建設した日本初のアーケード商店街でもある。

まずSDGsを認知させようと、SDGsマークをプリントしたポスターや横断幕を商店街の目立つ場所に配置したり、「まちゼミ」で勉強会を行ったりした。さらに商店街の人がこれまで行ってきた活動をSDGsに結びつけていった。例えば、廃油を活用させたつくりは17の目標のうち4番、アーケードへのソーラーパネルの設置は7番、食品廃棄物を減らす工夫は12番というように。そうした活動を可視化しようと動画にまとめたところ、それが第1回SDGsクリエイティブアワードゴールド賞を受賞した。

を立てようとした矢先、SDGsモデル都市になったので、商店街を挙げて社会的課題に取り組んでいこうと考えました」と旗振り役である魚町商店街振興組合理事長の梯輝元さんは経緯を説明する。



廃棄野菜の減少を目指して規格外野菜を積極的に販売



賞味期限間近の食品を仕入れて販売する輸入食品店では40%売り上げがアップ